

“ S-TTL ” 自動調光の露出精度サンプル画像

『D-2000』(“ S-TTL 自動調光モード ”)を使用した場合と、デジタルカメラ内蔵ストロボのみを用いた場合、双方のサンプル画像を、カメラ側絞り値を変化させて撮影/列挙致しました。

イノン『D-2000』が持つ“ S-TTL ”自動調光モードが、いかに高精度の露出制御を行なうかをご確認下さい。

2004 年 11 月 30 日
有限会社イノン

テスト条件

- ・カメラ/ハウジング (*1) : Canon PowerShot S60 / Canon WP-DC40
- ・外部ストロボ : D-2000
- ・カメラ側撮影パラメータ : 本ページ中よりリンクされた元画像(未編集)の EXIF 情報参照のこと。
内蔵ストロボに“ クリアフォトフィルム ” (*2)を貼っています。
- ・ストロボ側設定 : “ S-TTL モード ”、EV. コントロールスイッチ : “ B ”

(*1) 2004 年 11 月 30 日現在、S60/WP-DC40 への対応製品を開発検討中です。

本テストでは、開発検討中である、“ 光 D ケーブル ”、および“ マウントベース ”を使用して、D-2000 との接続を行なっています。

(*2) 内蔵ストロボ光の可視光成分を洩らさずカットする事で、“ S-TTL ”モードでの正確な露出制御を実現する、イノン“ クリアフォトシステム ”を構成するフィルターです。

“ S-TTL ”自動調光の精度を高める為に必要不可欠なアイテムです。もちろん、“ クリアフォトシステム ”を使用することで、レンズ前のゴミの乱反射を抑え、“ マリンスノー ”現象のほとんどない、クリアな画像を得られるという効果もあります。



D-2000(“ S-TTL ” 自動調光)



F3.5



F4



F4.5



カメラ内蔵ストロボのみ



F5

D-2000(“ S-TTL ” 自動調光)



F5.6



F6.3



F7.1



F8

カメラ内蔵ストロボのみ

